

渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針 策定に係る教員アンケート結果

令和8年1月23日

渋川市教育委員会事務局

教育総務課学校再編推進室

1 調査概要

1. 調査の目的

小中学校適正規模・適正配置における「適正規模基準」について、教育現場の教員の情報を収集し、教育現場の実態に即したものとするために実施するもの。

2. 調査期間

令和7年12月1日(月)～令和7年12月12日(金)

3. 調査方法

LoGoフォームを用いたオンライン回答による

4. 調査対象、対象者数及び回答率

(1) 調査対象: 市内小中学校に勤務する管理職及び県費教諭(栄養教諭を除く)

(2) サンプル数及び回答率

区分	対象者数	回答数	回答率
小学校	229人	167人	72.9%
中学校	164人	113人	68.9%
計	393人	280人	71.2%

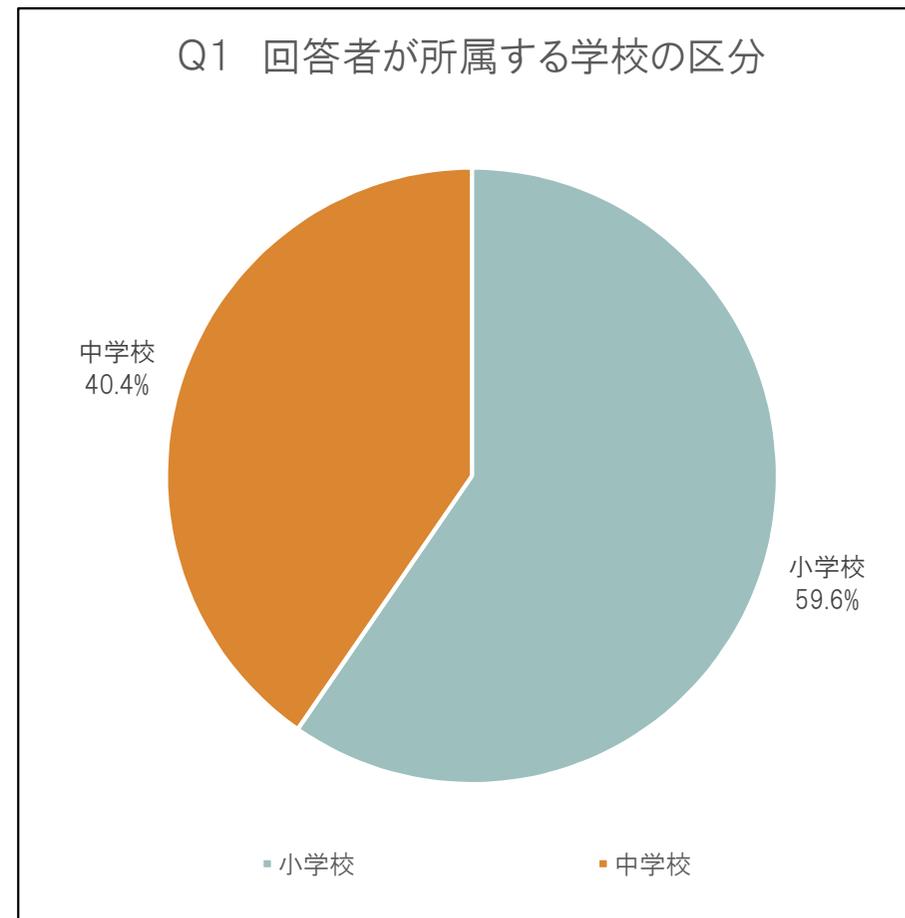
2 設問一覧

番号	設問	形式
Q1	あなたが所属する学校の区分を選択してください。	選択式
Q2	あなたの年齢層を選択してください。	選択式
Q3	あなたの職を選択してください。	選択式
Q4	あなたの学校の平均的な学級の児童生徒数の規模を教えてください。	選択式
Q5	あなたの学校の平均的な児童生徒数について、どのように感じていますか？	選択式
Q6	Q5で回答した主な理由を教えてください。	自由記述
Q7	あなたの学校の平均的な学年の学級数を教えてください。	選択式
Q8	あなたの学校の平均的な学年の学級数について、どのように感じていますか？	選択式
Q9	Q8で回答した主な理由を教えてください。	自由記述
Q10	1学級あたりの児童生徒数について、どの程度が望ましいとお考えですか？	選択式
Q11	Q10で回答した主な理由を教えてください。	選択+自由記述
Q12	1学年あたりの学級数について、どの程度が望ましいとお考えですか？	選択式
Q13	Q12で回答した主な理由を教えてください。	選択+自由記述
Q14	その他、これまでの、あるいは現在の学級規模・学校規模について、お気づきになったことがあればご記入ください。	自由記述

3 調査結果

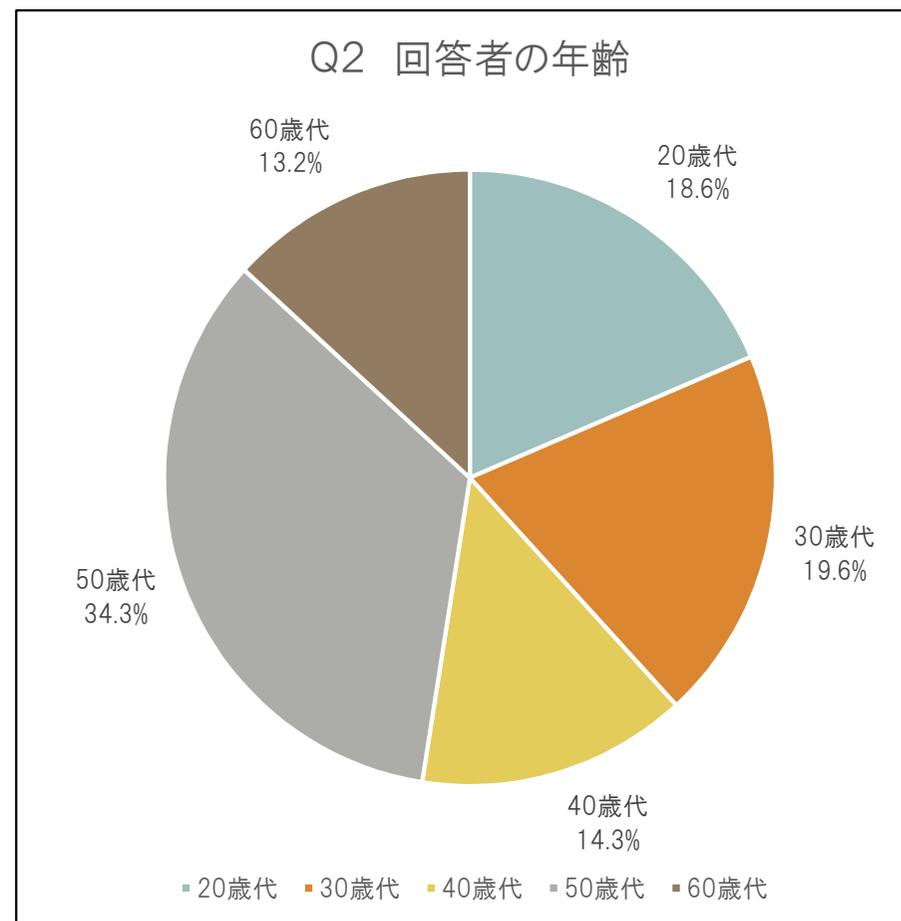
◆Q1:あなたが所属する学校の区分を選択してください。

	回答	構成比
小学校	167	59.6%
中学校	113	40.4%
計	280	100.0%



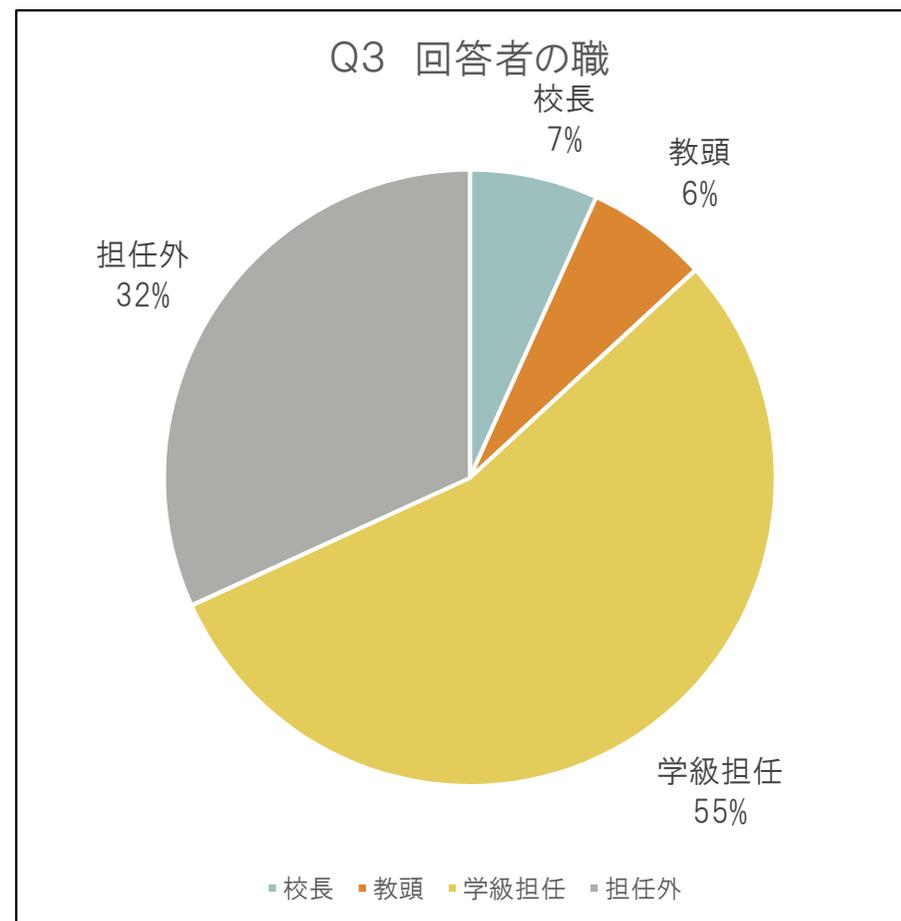
◆Q2:あなたの年齢層を選択してください。

	回答	構成比
20歳代	52	18.6%
30歳代	55	19.6%
40歳代	40	14.3%
50歳代	96	34.3%
60歳代	37	13.2%
計	280	100.0%



◆Q3:あなたの職を選択してください

	回答	構成比
校長	19	6.8%
教頭	18	6.4%
学級担任	154	55.0%
担任外	89	31.8%
計	280	100.0%

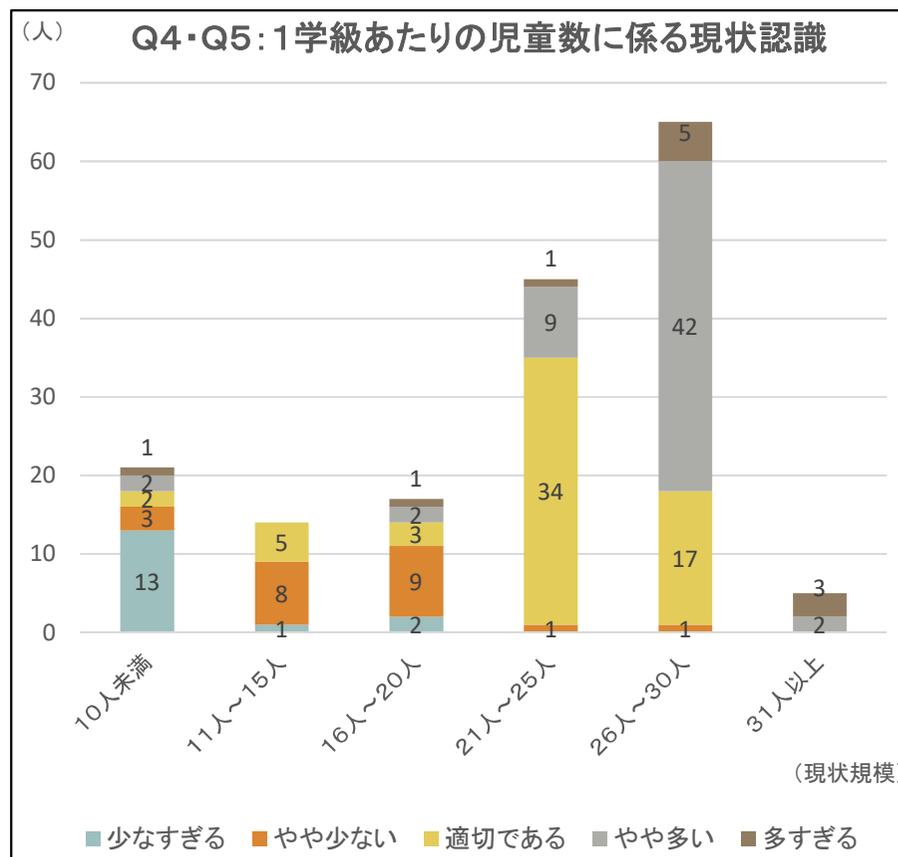


【小学校】

◆Q4:あなたの学校の平均的な学級の児童生徒数の規模を教えてください。

◆Q5:あなたの学校の平均的な児童生徒数について、どのように感じていますか。

現状規模	少なすぎる	やや少ない	適切である	やや多い	多すぎる	計
10人未満	13	3	2	2	1	21
11人～15人	1	8	5			14
16人～20人	2	9	3	2	1	17
21人～25人		1	34	9	1	45
26人～30人		1	17	42	5	65
31人以上				2	3	5
計	16	22	61	57	11	167



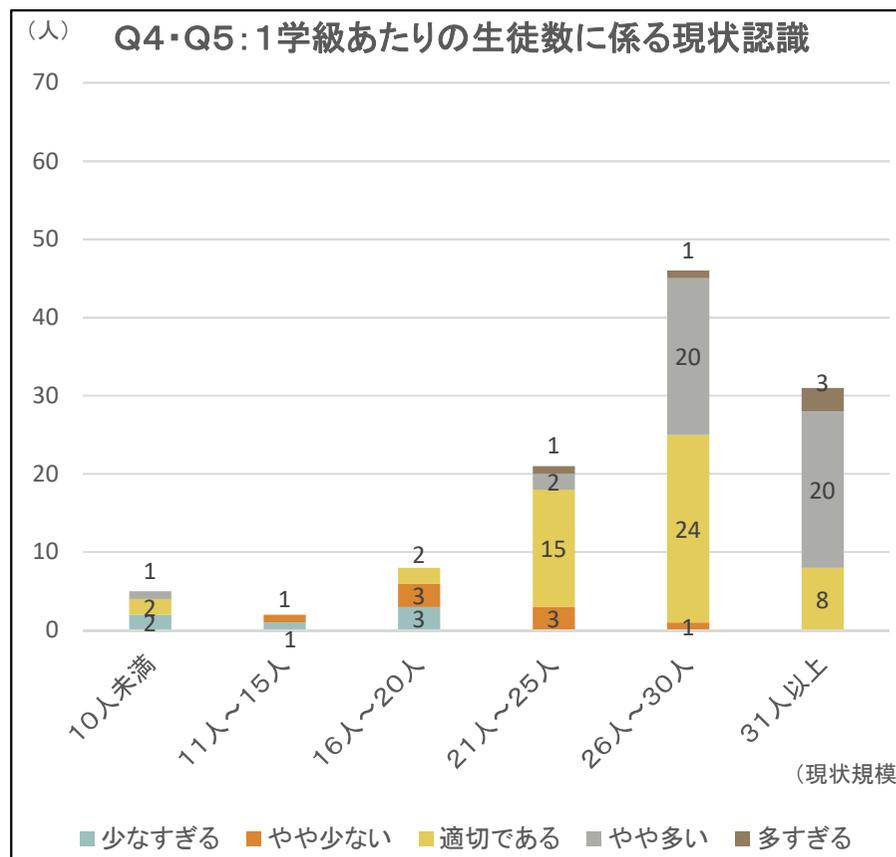
現状規模を「適切である」と感じている者が最も多いのは、現状が21人～25人規模の者である。次に多いのは現状が26人～30人規模の者であるが、同じ規模グループにおいては、「やや多い」と回答した者の方が多くなっている。16人～20人以下の規模グループでは、「やや少ない」「少なすぎる」との回答が増える。

【中学校】

◆Q4:あなたの学校の平均的な学級の児童生徒数の規模を教えてください。

◆Q5:あなたの学校の平均的な児童生徒数について、どのように感じていますか。

現状規模	少なすぎる	やや少ない	適切である	やや多い	多すぎる	計
10人未満	2		2	1		5
11人～15人	1	1				2
16人～20人	3	3	2			8
21人～25人		3	15	2	1	21
26人～30人		1	24	20	1	46
31人以上			8	20	3	31
計	6	8	51	43	5	113



現状規模を「適切である」と感じている者が最も多いのは、現状が26人～30人規模の者である。次に多いのは現状が21人～25人規模の者であり、この規模グループにおいても「適切である」と回答した者が最も多くなっている。また、31人以上にも一定数「適切である」との回答が見られる。

◆Q6:Q5で回答した主な理由を教えてください。

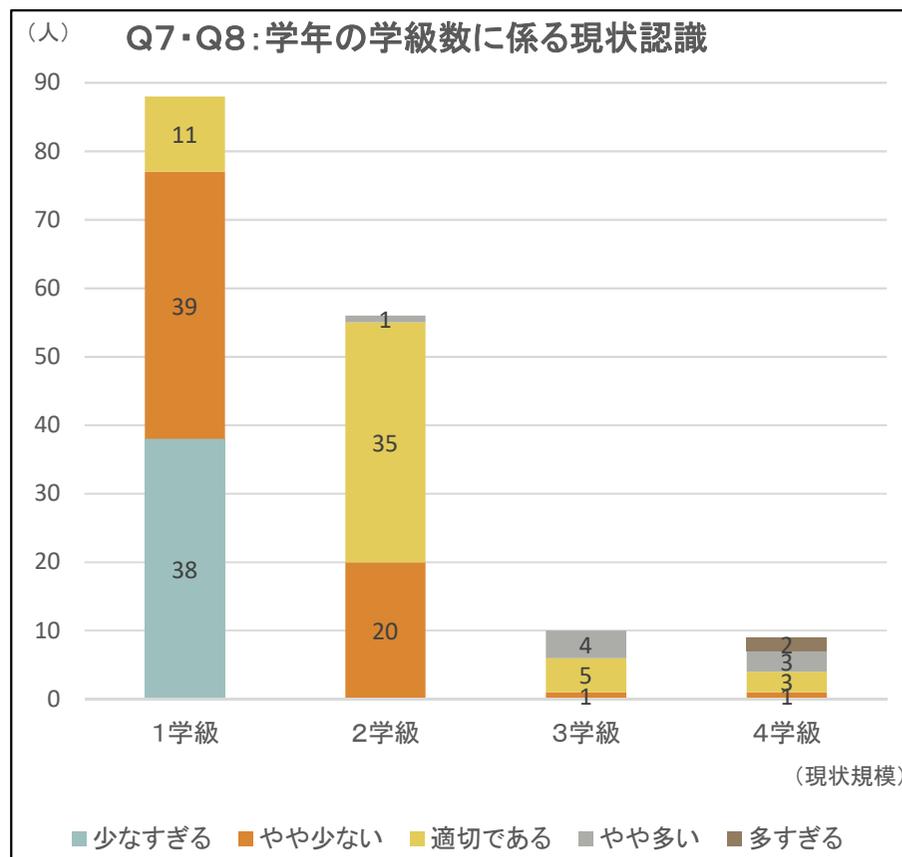
選択肢	区分	主な理由
少なすぎる	小学校	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士の交流が十分にできない。人間関係が極端に狭く、一度関係が悪化すると逃げ場がない。 他の意見に触れて自分の意見と比較するなどができず、学びの深まりや広がりがない。
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動を行う際、人数が少ないため、メンバー変動があまり変わらず、学びが深まりづらいことがある。 単学級、少人数のため、クラス替え等の環境の変化がない。
やや少ない	小学校	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人へのきめ細やかな支援もしやすい人数だが、集団としての協働的な学びをするにはやや人数が少ない。 地域柄もあるが、少子化の影響をとて強く感じており、少ないが、環境的にはとても良いと感じている。
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> グループワークはできる人数であるが、グループの組み方にもバリエーションが少なく、考えの幅が広がりにくい。 単学級なので、人数が少ないと人間関係が固定化され、広がりのある人間関係や授業にならない。
適切である	小学校	<ul style="list-style-type: none"> 全体に目が届きやすいと思う。30人程度が所属する学級はかなり苦勞している様子が伺える。 教室にゆとりが感じられる。
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適化を考えた際に20人程度が指導する限界だと感じる。 生徒を理解したり、何か情報を把握するのに適切な人数であると感じる。
やや多い	小学校	<ul style="list-style-type: none"> 教室の余白が少ない。 日々のノートや提出物、宿題等を点検するのに時間がかかり、業務負担が大きい。
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の生活環境が多様化する中で、30人以上の生徒を一斉指導する難しさを感じている。 4人組の協同学習を行う際、各グループの学び合いを見取るには、もう少し人数が少ない方が良く見られる。
多すぎる	小学校	<ul style="list-style-type: none"> 人数が多いことで生じる担任の負担(宿題チェックや○付け、面談や対応など)が大きい。 教室もいっぱいいっぱいゆとりがなく、グループ活動もやりにくい。テストも机と机を十分に離すことができない。
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> 授業や学級指導で、すべての生徒に細かな指導が困難である。 進路指導において、インタビューシート、面接など個々に十分な指導の時間がとりにくい。

【小学校】

◆Q7:あなたの学校の平均的な学年の学級数を教えてください。

◆Q8:あなたの学校の平均的な学年の学級数について、どのように感じていますか。

現状規模	少なすぎる	やや少ない	適切である	やや多い	多すぎる	計
1学級	38	39	11			88
2学級		20	35	1		56
3学級		1	5	4		10
4学級		1	3	3	2	9
計	38	61	54	8	2	163



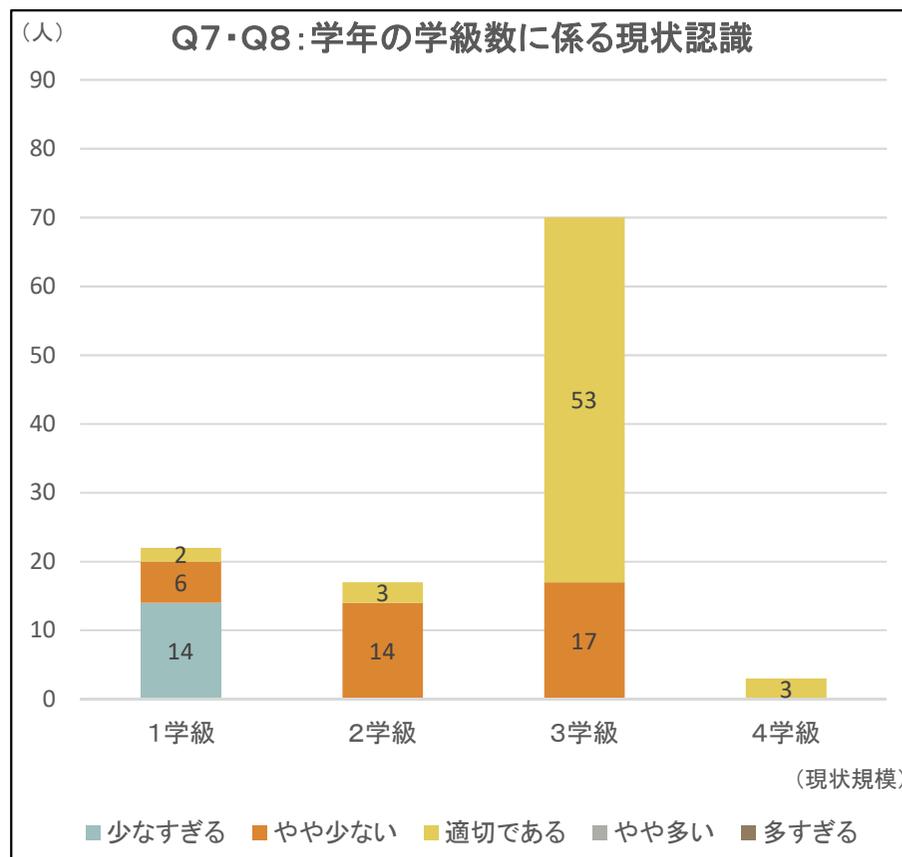
現状規模を「適切である」と感じている者が最も多いのは、現状が2学級の者である。現状が3学級の者の回答においても「適切である」の割合は大きい。一方で、1学級については「やや少ない」「少なすぎる」の回答が非常に多くなっている。

【中学校】

◆Q7:あなたの学校の平均的な学年の学級数を教えてください。

◆Q8:あなたの学校の平均的な学年の学級数について、どのように感じていますか。

現状規模	少なすぎる	やや少ない	適切である	やや多い	多すぎる	計
1学級	14	6	2			22
2学級		14	3			17
3学級		17	53			70
4学級			3			3
計	14	37	61			112



現状規模を「適切である」と感じている者が多いのは、現状が3学級以上の者であり、4学級の者は全員が「適切である」と回答している。一方、現状が2学級以下の者の回答においては「やや少ない」「少なすぎる」の割合が多く、小学校よりも多い学級数を適切と感じる者が多くなっている。

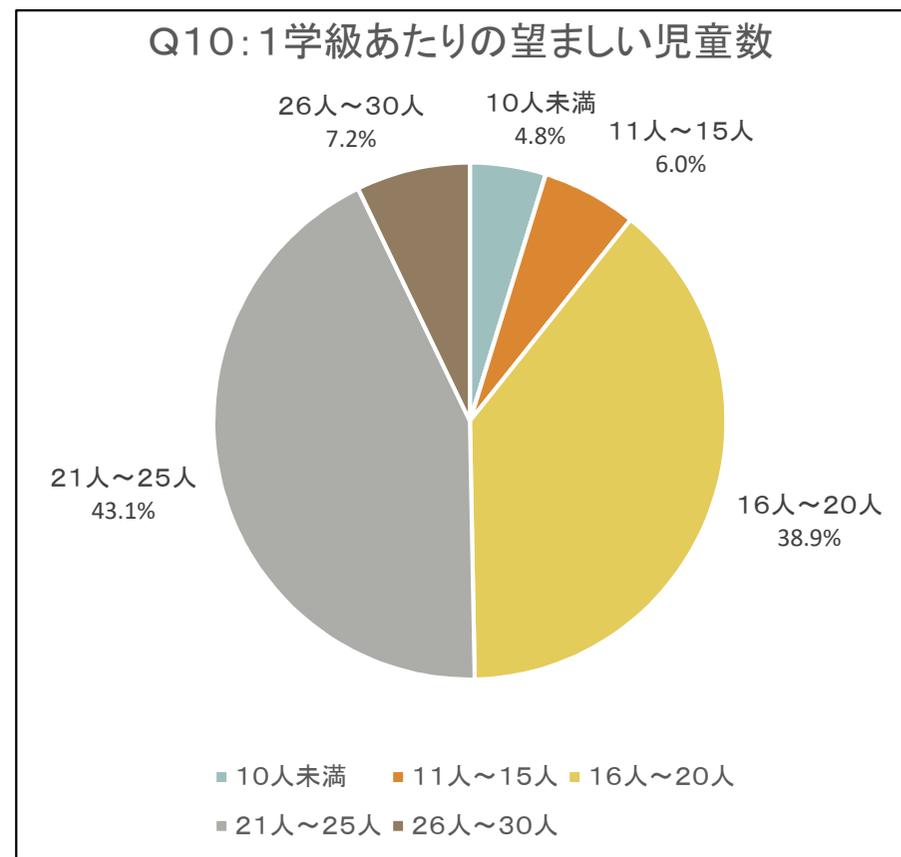
◆Q9:Q8で回答した主な理由を教えてください。

選択肢	区分	主な理由
少なすぎる	小学校	<ul style="list-style-type: none"> 学級数が少ないことで担任の数が減り、職員の数が少なくなる。教員一人一人へかかる負担が大きすぎる。 各学年単学級では、教職員間の連携が難しいこと、若手教職員の育成に困難がある。
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> 単学級ではクラス内の人間関係に変化が起きにくく、友達関係にゆがみが出たとき、関係を改善するのが難しい。 行事や集団活動で教育的効果が十分に得にくく、男女比の偏りや上・下級生の関わりも少ない。
やや少ない	小学校	<ul style="list-style-type: none"> 2クラスだとクラス替えのときに対応が難しいことがある。 学年運営上、学級数が2だと分担が難しく、せめて3以上あると、それぞれの経験、職能を活かし協力分担がしやすい。
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> クラス対抗の行事ができ、かつ学年の仕事を分担するには、3～4学級くらいあるとやりやすい。 学級数としては適切に感じるが、各学年で5教科を担当する教員をすべて配置できない。
適切である	小学校	<ul style="list-style-type: none"> 教師の数が多くなるため、校務分掌の偏りが減ることや、悩みごとの相談ができる。 複数学級のあるほうが学年主任という立場・役割を教職員も経験できるので、人材育成の側面からも有効である。
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間の人間関係やトラブルを配慮したクラス編成にするためには、3学級以上あると良い。 3学級あると競い合うことができ、高め合うことができる。
やや多い	小学校	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制や、学年内での教科を持ちかえることを考えると2クラス程度が授業を組みやすい。 学年で活動する際の指導やその見取り等が難しい場面がある。 学年内の教員同士で協力できる良さはあるが、学級数が増えると情報共有等に多くの時間を要する傾向がある。
多すぎる	小学校	<ul style="list-style-type: none"> 児童数が多く、様々な行事や活動を行う中で、時間がかかりすぎてしまったり、制限を受けてしまうことがある。 学校規模が大きく、行事や校外学習が大変である。

【小学校】

◆Q10:1学級あたりの児童数について、どの程度が望ましいとお考えですか。

児童数	回答	構成比
10人未満	8	4.8%
11人～15人	10	6.0%
16人～20人	65	38.9%
21人～25人	72	43.1%
26人～30人	12	7.2%
31人以上	0	0.0%
計	167	100.0%

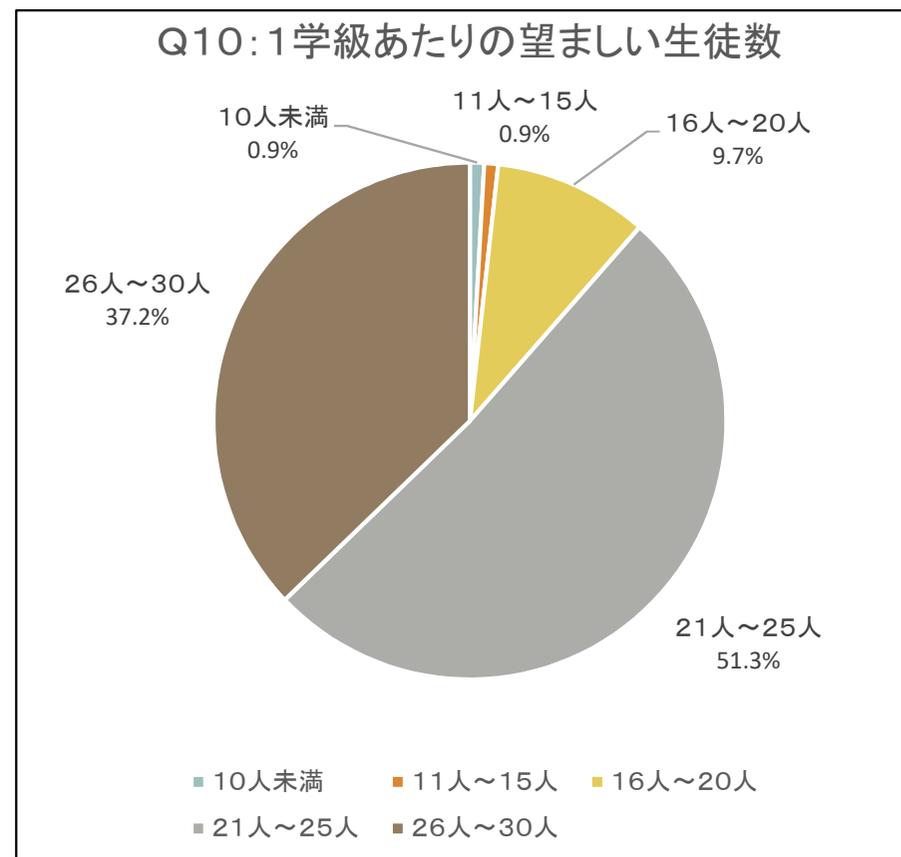


21人～25人を望ましいと考える者が43.1%と最も多く、次いで16～20人が38.9%となっており、8割以上の回答者がこのいずれかの範囲を望ましいと考えている。なお、31人以上を望ましいと回答した者はいなかった。

【中学校】

◆Q10:1学級あたりの生徒数について、どの程度が望ましいとお考えですか。

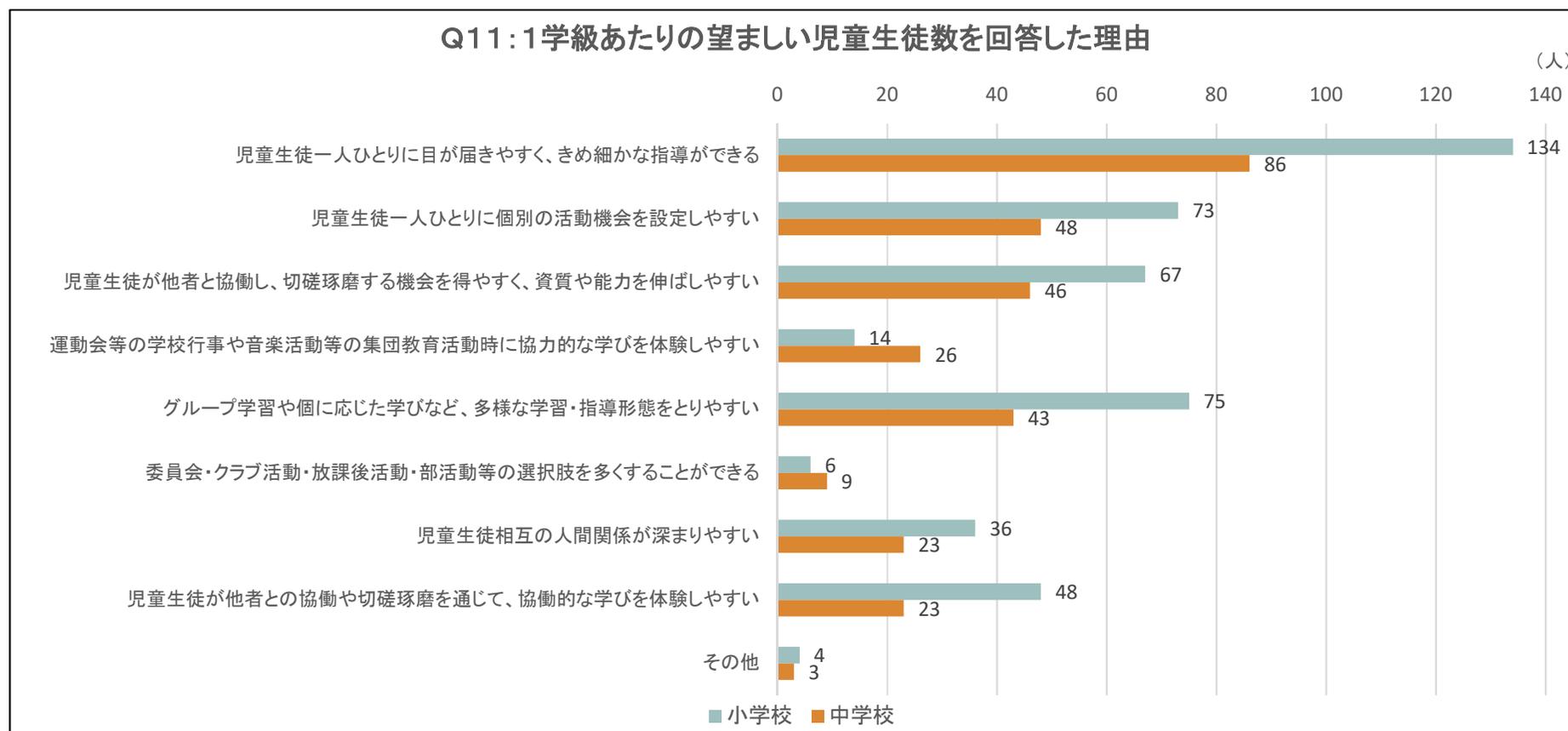
生徒数	回答	構成比
10人未満	1	0.9%
11人～15人	1	0.9%
16人～20人	11	9.7%
21人～25人	58	51.3%
26人～30人	42	37.2%
31人以上	0	0.0%
計	113	100.0%



21人～25人を望ましいと考える者が51.3%と最も多く、次いで26～30人が37.2%となっており、9割近くの回答者がこのいずれかの範囲を望ましいと考えている。小学校では多かった16人～20人は、中学校では少数にとどまっている。なお、小学校同様、31人以上を望ましいと回答した者はいなかった。

【小学校・中学校】

◆Q11:Q10で回答した主な理由を教えてください。

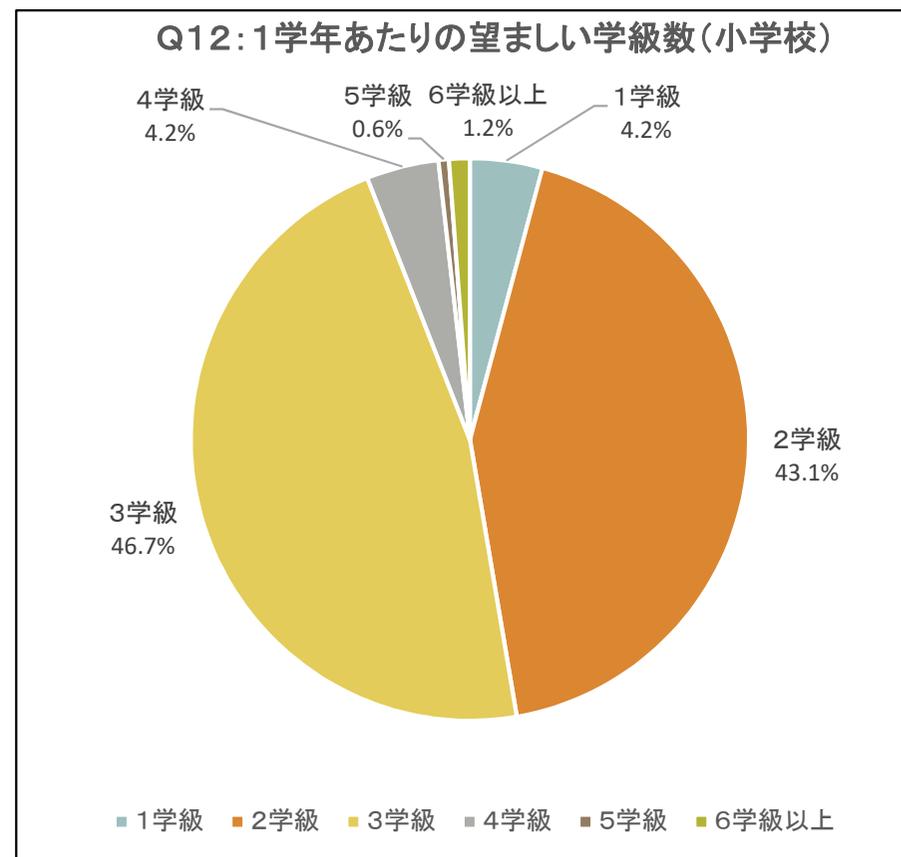


小・中学校共に「児童生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導ができる」を理由とした者が最も多い。次いで「個別の活動機会設定」「他者との協働・切磋琢磨の機会の確保」「多様な学習・指導形態」などが多くなっている。

【小学校】

◆Q12:1学年あたりの学級数について、どの程度が望ましいとお考えですか。

学級数	回答	構成比
1学級	7	4.2%
2学級	72	43.1%
3学級	78	46.7%
4学級	7	4.2%
5学級	1	0.6%
6学級以上	2	1.2%
計	167	100.0%

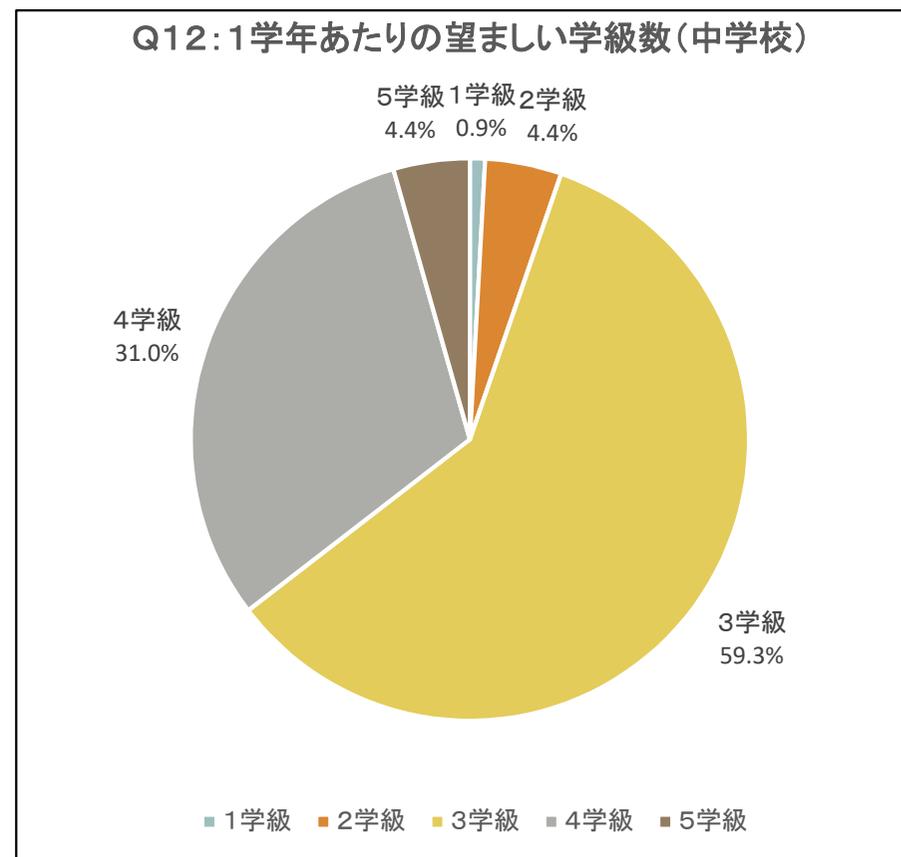


3学級が46.7%と最も多く、次いで2学級が43.1%となっており、9割近くの回答者がこのいずれかの学級数を望ましいと考えている。

【中学校】

◆Q12:1学年あたりの学級数について、どの程度が望ましいとお考えですか。

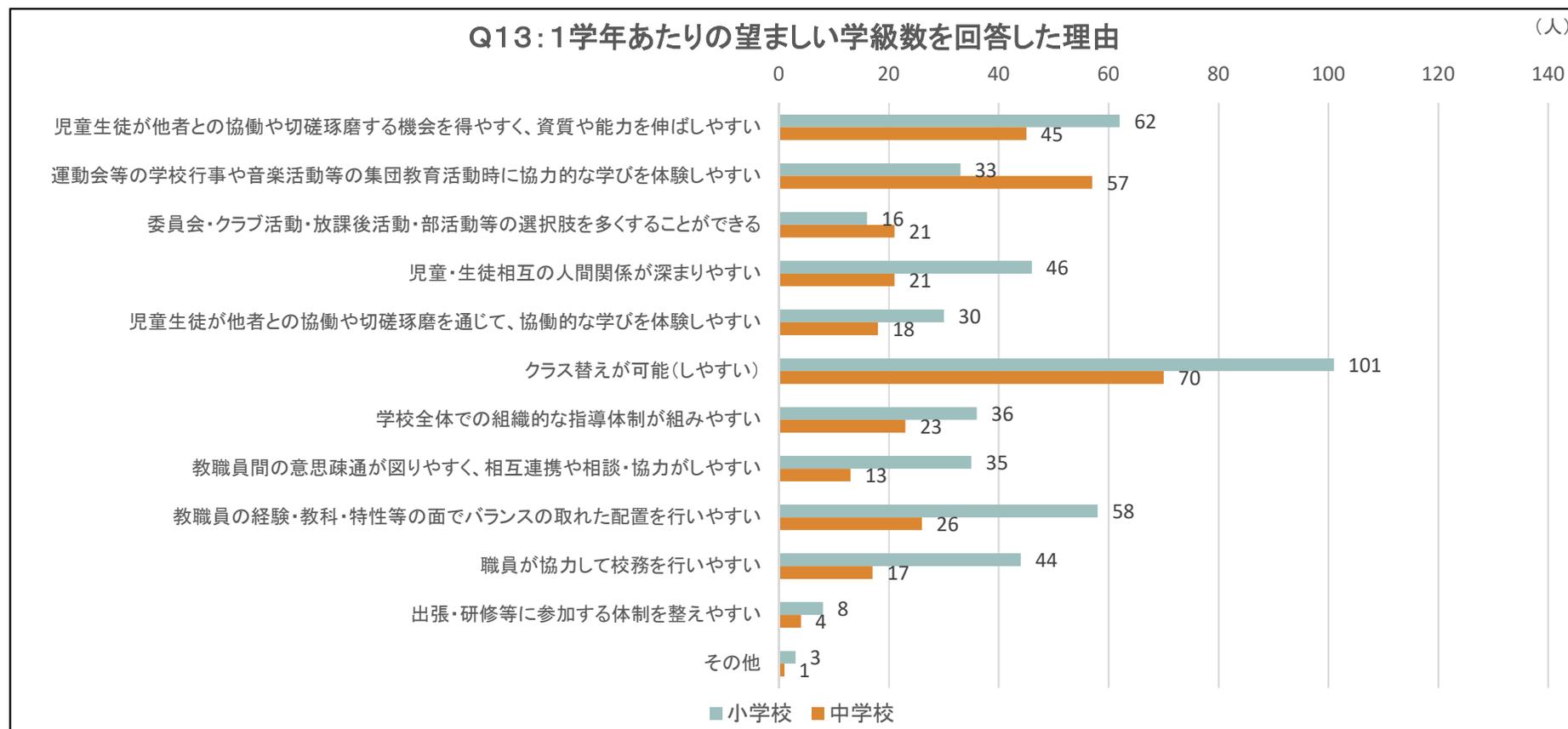
学級数	回答	構成比
1学級	1	0.9%
2学級	5	4.4%
3学級	67	59.3%
4学級	35	31.0%
5学級	5	4.4%
6学級以上	0	0.0%
計	113	100.0%



3学級が59.3%と最も多く、次いで4学級が31.0%となっており、9割以上の回答者がこのいずれかの学級数を望ましいと考えている。なお、小学校で多かった2学級については4.4%にとどまっており、中学校ではより多くの学級数が望まれていると考えられる。

【小学校・中学校】

◆Q13:Q12で回答した主な理由を教えてください。



小・中学校共に「クラス替えが可能(しやすい)」を理由とした者が最も多くなっている。また、1学級あたりの児童生徒数でも多かった回答に加え、「教職員の配置」や「校務の行いやすさ」など、運営面に係る項目についても一定の回答数が見られる。

【小学校・中学校】

◆Q14:その他、これまでの、あるいは現在の学級規模・学校規模について、お気づきになったことがあればご記入ください。

①学級の規模・学級数に関する意見

小学校	<ul style="list-style-type: none">● 児童にとって、単学級はお互いの人間関係がよいとストレスは少なくなるが、問題があったり、個の対応が必要な児童が多いクラス・学年になったときは、関係をつくっていくことがかなり難しい。また職員として、単学級の規模になると、担任の力量が試される場面が多くなる。先生たちの責任の重さが負担になっている。● これまでの経験から、1学級の児童数は、20～25名程度が望ましいと感じている。理由は、一人の担任で個々の学習状況を把握するには、20名、多くても25名程度がよいと感じるからである。30名を超えると、1日の中で全く声をかけなかった児童が生じてしまっていた。特に、1～2年生は、生活面でも細やかな指導をしてあげる必要があり、できれば低学年は20名以下が望ましいと思う。● 学年の学級数は、3学級以上が望ましいと感じている。理由は、クラス替えをすることができ、児童の人間関係の固定化解消になると思うからである。特性のある児童も年々増えているので、2学級だと離してあげたい児童をどうにも分散することができず、クラス替えが可能であっても学級編制に苦勞することが多々あった。● 児童数が少ないと、きめ細やかな支援ができるが、ある程度の人数がいないと、本来集団で経験できることができずらい。(運動会、校外学習、委員会など)
中学校	<ul style="list-style-type: none">● 中学校でクラス替えができないと、発達段階における人間関係づくりがいろいろな面において難しくなる。中学校段階では、社会に適應するためにもなるべく多くの人と関わられるようにしたほうが良いと思う。● 1学級は30人、1学年は4クラスが学校行事や学年単位の活動は、しやすいと思う。また、クラス編制の柔軟性もあるとよい。1組:20人、2組:30人など1クラスの人数に差を付けても良いと思う。(数的な平等は担保されないが、質的な平等を担保できるから)● 2学級以下の場合は学校行事の見直しなどが必要だと考える。4学級、あるいは3学級の学校規模が生徒のことを考えても、先生方のことを考えても適切だと考える。● 単学級よりも複数学級の方が人間関係や学び(授業、学校行事、部活動等)の場が広がると思う。また、複数学級であると職員も学び会えると思う。校外学習の引率等においても、単学級で初めて担任で連れて行くことが減り、学年で経験してから安心して対応することが出来ると思う

②学び・生活に関する意見

小学校

- 子どもの数が減少していく流れが続いており、本校でもこの数年で学級数が大きく減少する事態になっている。これまで通りの「教師が教え込む」学校教育を続けていくのであれば現在の制度に則った規模が適正と判断されたかもしれないが、「子供が自ら学ぶ」授業が市の目指す授業像として掲げられているように、学習観の転換の必要性が高まっている今、学級内の児童の最大数はより少なくかつ学級数を多くした環境がより効果的であろうと思う。渋川の子どもたちが自ら学ぶ環境として、またそれを教師が支えていける環境として、「1学年2学級以上・1学級20人以下」あたりが最適だろうということを経験している。
- 複数学級の規模がある学校のほうが、子どもたちが多くの人間関係を通して、様々な社会性を学んだり、資質・能力を育成する機会が充実していると感じる。特にこれから求められるエージェンシーを発揮するという視点に立ったとき、自分とみんなのウェルビーイングの実現に向けてという視野の広さをもつことは、小規模の学校だと十分な環境条件が整わない可能性もあると感じる。ある程度の学校規模で多くの大人たちの目で多面的・多角的に教育活動が行われるほうが、社会とのつながりを考えた場合は良いかもしれないと考える。
- 少人数を生かした先生方のきめ細かな指導と様々な環境設定の工夫により、一人一人が元気に登校し伸び伸びと学校生活を送ることができているが、少なさには限界があり、他者の多様な考えにふれることや、協働的学びには限界を感じる。学校行事や児童会活動運営も厳しい状況である。どの規模の学校にもその良さがあり、長所短所は必ずあると思う。様々な観点から検証することと、その中でどの観点到に重きを置くかが重要ではないかと考える。

中学校

- 本校の生徒は小学校から同じメンバーで過ごしてきており、新たな人間関係の構築の仕方や大人数での関わり方を学ぶ機会があまりない。その状態で義務教育を終えることで、高校や社会に出た時に中学までの違いに驚き、戸惑う生徒が多い。
- 生徒の人数が少ないと、人間関係も固定されてしまいお互いに遠慮している。よって、コミュニケーション能力が低い。また、友達関係も広がらないのでトラブルがあると辛そうであり、早く中学を卒業したいと言う生徒が多い。さらに、保育園からずっと同じ仲間、「友達の作り方がわからない。だから、高校に入学するのが不安である」と、言う生徒も結構いる。あまりにも狭い世界で9年間の義務教育を受けて、他の学校の生徒と比べると、成長過程で経験すべきことができていると感じる。

③学校の運営に関する意見

- | | |
|-----|--|
| 小学校 | <ul style="list-style-type: none">● 児童、職員ともに、一人が担う役割が多く、過剰負担になりやすい。小規模校のよさを活かすためには、各学年単学級で存続できる程度の児童・職員数が必要である。● 1クラスの人数が多過ぎると、教科等の指導担当が一人なため、きめ細かな指導ができない。学年1クラスだと、クラス替えができずに、人間関係等でトラブルがあっても対応することが難しい。法規等に定められていて現場の思いをそのまま反映させることが難しいとは思いますが、昨今教員の人数が減っていたり休職に入ってしまう教員がいたりして、現在働いている教員の負担が増えている。学級規模・学校規模について考えてはいるが、そもそも学校内に配置できる教員数を増やすことが先決な気がする。● 単学級は、学校全体の職員数が少ないので、分掌の負担も大きいことも短所であると感じている。単学級だと、教科主任だけでも、一人2つ以上になるし、それ以外の各種分掌も3つ位は抱えているので、学級のこと以外にやるべき仕事が多すぎて、とても大変である。日直も2週に1度は回ってくる。(出張者がいて順番が変わると、2週に2回になることもある。)他県では、25人以下学級を実施しているところもある。適正な児童数について、教職員数の不足や予算面の難しさはあると思うが、現場の教職員の声も反映させていただき、できれば群馬県でも25人以下学級(少なくとも1,2年生)が実現するとよいと日々感じている。● 勤務時間は皆平等であるが、市内の中で学級規模にばらつきがあるため、同じ勤務時間の中でしなければならないことの量に差が出ると思う。そのため、学級数が多い学校には今まで以上に支援員の方を多く配置していただけると児童生徒に細やかな指導ができたり、勤務時間の短縮にもつながると思う。 |
| 中学校 | <ul style="list-style-type: none">● 生徒の人数が少ないほど、生徒一人ひとりに目が届き、細やかな指導がしやすくなる。また、学級事務の負担も軽減される。● 学年3~4クラスであると、様々な理由で学校運営、学年経営がやりやすかった。● 学年職員がチームで指導していくことを考えるとある程度のクラス数、学校規模が必要だと思う。● 難しいのは承知しているが、学年ごとに五教科の教師が配当されることが望ましいと考える。 |

④再編について

小学校

- 市内では急速に学校の小規模化が進んでいる。沼田市や館林市が先陣を切って思い切った再編統合計画を示しているので、本市も追随しやすい状況かと思われる。今回のように教職員に意見を聞いていただいたことは、大変ありがたいと思う。
- 10年後はすぐに来るから、検討するならば20年後を想定して検討してもらいたい。
- 過小規模校でも、こども一人ひとりへの指導や支援がきめ細かにできるなどのメリット最大限に生かすことや、地域の力を借りたり、縦割り活動を行ったりして社会性やコミュニケーション能力を育むなどしてデメリットの緩和を行うことも可能であると感じている。
- 小規模特認校としては、他校では登校が難しいこどもや大きな集団での活動が苦手なこどもの受け皿的な面もある。
- 複式学級を解消することが、現在の教育体制の中では最優先だと思います。小学校では、地域に根ざした教育を進めることが望ましいと思います。中学校では、学区内に2校以上の小学校が設置されていることが望ましいと思います。

中学校

- 小規模校の良さはあるかもしれないが、将来的なことを考えれば今の単学級で生徒数が20人以下では、人間関係や教育環境がとても閉鎖的になってしまうと感じている。人数が多ければ1人1ひとりに目が届きにくいという声もあるが、子どもたち同士の学びを深めていくのであれば、多種多様な生徒がいる環境も生徒にとっては必要ではないかと思う。
- 望ましい規模とこれからの児童生徒の人数の両方の側面、様々な角度から学級、学校適正規模基準を決める必要がある。
- 学校規模の適正化を早急に行ってもらいたい。市内の学校数が多すぎて、改修もままならない。今の児童生徒は劣悪な環境で教育を受けている。職員についても、極小の非困難校と中規模の困難校では、負担が異なる。例えば、8人で1クラスの特別支援学級には担任が1人(本校)だが、小規模校には、沢山の職員が配置されている。不満を持つなどいっても無理だと感じる。本校では、極小規模校と中規模校から進学してくるが、学校規模の小さい順に生徒や保護者が、他者との協働に問題を抱え教員の負担になっている。小学校についても、中学年、高学年からは多人数の集団で学ぶことが、こどもの成長に繋がると思う。
- 再編統合後も、児童生徒数が減少していくことが予想されるが、再編統合を繰り返さないためにも、思い切った改革をして、適正規模の学校にしてはどうかと思う。
- 現状のクラス数だけではなく、今後のクラス数も考えて、学校の統廃合が必要だと思う。クラス数の減少に伴い、空き教室が多くあるので、その活用についても考えていく必要があると思う。